

Ⅲ. 令和5年度事業計画

日本薬理学会は、薬理学会会員に活発で刺激的な学術活動の場を提供するべく、今期の活動目標である「Diversity・Integration・Sustainability」を下記の通り実行致します。

1. Diversity

- 日本薬理学会の学術活動を活性化するために、学術団体（日本医学会・日本医学会連合・生物科学学会連合・日本脳科学関連学会連合・日本学術会議 等）の活動を通じて他学会との学術交流を推進します。
- 世界における日本薬理学会の役割を認識し、IUPHAR (International Union of Basic and Clinical Pharmacology)をはじめ世界各国の薬理学会との国際的連携を発展させてまいります。

2. Integration

- 日本薬理学会の「知的資産」を継承し、将来に向けて大きく発展させるために、デジタル・トランスフォーメーション (DX) を推進し活用致します。
- 薬理学会年会および各部会における画期的な学術プログラム企画を支援します。
- 原著英文誌「Journal of Pharmacological Sciences」から世界に向けた質の高いサイエンスの発信と、総説和文誌「日本薬理学雑誌」から会員に向けた有用な情報の提供を推進します。
- 産官学の連携を促進するべく、「オープンイノベーション活動」を推進します。
- 日本薬理学会創立100周年を迎える2026年度に向けて記念事業の企画および準備を進めてまいります。

3. Sustainability

- 次世代を担う薬理学研究者と薬理学教育者の育成に注力いたします。
- 薬理学会会員が学会活動を持続し活躍できるよう支援する取り組みを進めます。
- 学会活動の持続性を支える財政基盤の安定化と事務局運営体制の整備に取り組みます。

日本薬理学会創立100周年に向けて更なる発展を目指して目標を実行してまいり所存でございます。
会員の皆様のご理解と一層のご支援ご協力を賜りますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。

理事長 赤羽 悟美

1 薬理学研究の進展及び薬理学研究者育成のための学術集会及び講演会等の開催事業（公益目的事業1）

(1) 年会の開催

- 第97回 日本薬理学会年会（第44回日本臨床薬理学会学術総会と同時期開催）
年会長：今井 由美子（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所）
2023年12月14日～16日 神戸国際会議場，神戸国際展示場2号館

(2) 地方部会の開催

6回の地方部会を開催する。

- 第147回 日本薬理学会関東部会 部会長：廣瀬 謙造（東京大学・医）
2023年3月21日 東京大学本郷キャンパス・ハイブリッド開催
- 第148回 日本薬理学会関東部会 部会長：田中 光（東邦大学・薬）
2023年6月17日 オンライン開催
- 第143回 日本薬理学会近畿部会 部会長：野田 幸裕（名城大学・薬）
2023年6月24日 ウィンクあいち
- 第74回 日本薬理学会北部会 部会長：久場 敬司（秋田大学・医（現：九州大学・医））
2023年9月16日 カレッジプラザ（秋田県）
- 第76回 日本薬理学会西南部会 部会長：筒井 正人（琉球大学・医）
2023年10月7日 琉球大学医学部
- 第149回 日本薬理学会関東部会 部会長：木内 祐二（昭和大学・医）
2023年10月14日 昭和大学上條記念館

(3) 市民公開講座の開催

科学的で正確な薬理学的知識に基づいて、薬物に関する正しい知識を国民に対して広めることおよび薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動の一環として年会、地方部会と連動して市民公開講座を開催する予定である。

- ・第97回年会時を含めて、計3回の開催を予定している。

(4) 次世代薬理学セミナーの開催

日本の薬理学研究の活性化および国際プレゼンスの向上のため、意欲と能力のある若手を育成し、学会活動への積極的な参加を促すため、若手研究者による若手研究者を対象の次世代薬理学セミナーを開催する。Web配信により全会員が無料で視聴できる。2023年は第147回関東部会、第76回西南部会に合わせて計2回の開催を予定している。

(5) 看護薬理学カンファレンス2023の開催

会員数の少ない領域（保健学・看護系大学あるいは医療機関における教育研究者や看護職者など）に対し、薬理学会との交流の機会を提供し、同時に本会の若手会員のキャリア開発を支援することにより、薬理学教育・研究の益々の発展に資する企画として年会、地方部会と協力し、看護薬理学カンファレンスを開催する。

- ・第148回関東部会（2023年6月17日）および第97回年会（2023年12月14日-16日）に合わせて2回の開催を予定している。

(6) 新薬理学セミナー2023の開催

- ・最近のデジタルトランスフォーメーション（DX）の動向を視野に入れて、本会および日本臨床薬理学会双方の今後の発展に寄与しうる、富岳を活用したプレジジョンメディシンを加速する臨床・創薬ビッグデータ研究に焦点を当てて開催する。

「富岳の街からの次世代薬理学」（第97回年会開催時）2023年12月14日（予定）

- ・将来の薬理学分野の活性化や広がり貢献できるDigital Pharmacology Conference（DPC）のコンセプトの更なる発展を目指して、第2回DPCを第149回日本薬理学会関東部会（2023年10月14日）のサテライト企画として開催する

2 薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及を目的とし、学会誌等を刊行する事業（公益目的事業2）

(1) Journal of Pharmacological Sciencesを全面電子体のオープンアクセス誌として刊行する。

- ・2023年刊行予定：151巻1～4号、152巻1～4号、153巻1～4号

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとかからだ／ファーマコロジカ）の刊行

- ・2023年刊行予定：158巻1～6号 計6冊

3 優れた業績をあげた研究者の表彰及び研究の一層の飛躍を期待した研究奨励のために、各賞を設置し、研究者と研究業績を表彰する事業（公益目的事業3）

(1) 江橋節郎賞

日本薬理学会名誉会員故江橋節郎先生の生命科学への貢献を末永く顕彰するため、江橋節郎賞を創設し、薬理学の進歩に貢献した研究者に授与している。第16回選考は「トランスレーショナルリサーチ・応用」の研究領域で、推薦を受け付けた。

- ・第16回江橋節郎賞受賞者の受賞講演は、第147回関東部会会期中（2023年3月21日）に行われる。

今井 由美子（（国研）医薬基盤・健康・栄養研究所・プロジェクトリーダー）

『ウイルスに対する宿主生命システムの動作原理の解明と新規治療基盤の確立』

- ・第17回江橋節郎賞は5月末日までに「基礎」の領域での募集を公告し、推薦締切は8月末日、江橋節郎賞選考委員会の選考を経て理事会で決定する。

(2) 学術奨励賞

薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される研究者に学術奨励賞を授与する。

- ・第38回学術奨励賞受賞者3名の受賞講演は、第147回関東部会会期中（2023年3月21日）に行われる。

北田 研人（香川大学・医・助教）

『「全身性体液保持機構」の発見とその病態生理学的意義の解明』

清水 翔吾（高知大学・医・助教）

『排尿を促進する脳内物質の発見と排尿障害に対する新規薬物治療戦略の基盤構築』

西山 和宏（九州大学・院薬・講師）

『Gタンパク質共役型受容体の機能性修飾に着目した薬理学的研究』

- ・第39回学術奨励賞は5月末日までに募集を公告し、推薦の締切は8月末日、賞等選考委員会の選考を経た3件以内の候補者について理事会で決定する。

(3) JPS 優秀論文賞

JPS 優秀論文賞は、過去3年間に JPS に掲載された論文の中から選出されてきたが、2023 年以降は、授賞年度の前年1年間に JPS に掲載された原著論文の中から選考し、その著者に授与することを決定した。移行期間である 2023 年度の授賞選考対象論文には 2020 年、2021 年出版分を含めることができる。

- ・第 27 回 JPS 優秀論文賞受賞者および第 28 回 JPS 優秀論文賞受賞者に賞状と副賞を授与する。
- ・第 29 回 JPS 優秀論文賞 3 編以内を決定する。

(4) 年会優秀発表賞

年会学術集会への優れた発表を促し、学問的情報発信の場としての役割を高めるために第 97 回年会で一般演題の中から優秀な発表に対して、10～20 件の年会優秀発表賞を授与する。

(5) 優秀査読者賞

Journal of Pharmacological Sciences の査読者の質を向上させ、掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で 5 名以内に JPS 優秀査読者賞を授与する。

4 薬理学及びわが国学術文化の進展・発展への寄与を目的とした、内外の関連学術団体との連携及び協力事業（公益目的事業 4）

(1) 日本学術会議との連携

日本学術会議協力学術研究団体として国際連携を推進する。

(2) 日本医学会との連携

第 31 回日本医学会総会の開催に協力する。

(3) 生物科学学会連合との連携

加盟団体と情報を共有して「生物科学」の健全な発展に協力するために、定例会議に出席する。連合の一員として、行政等への提言、働きかけを行う。

(4) 日本脳科学関連学会連合との連携

加盟団体の一員として、脳科学の発展ならびに普及を通して社会への貢献に協力する。

(5) 国内の関連学術団体と連携して年会で共催シンポジウム等を開催する。

(6) 海外の関連学術団体と連携して共催シンポジウム等を開催する。

- ・ JPS-ASPET 講師交換プログラム
ASPET2023 Annual Meeting (2023 年 5 月 18～21 日, St.Louis) に講師派遣予定
第 97 回年会会期中 (2023 年 12 月, 神戸国際会議場) に講師招聘予定
- ・ 第 9 回日中薬理学・臨床薬理学 Joint Meeting (中国・上海)

5 薬理学エドゥケーター認定制度（その他の事業）

優れた薬理学教育者を育成・支援し、薬理学の知識の普及および研究水準向上への貢献を目的として、薬理学エドゥケーター認定事業を行っている。毎年、6 月 1 日から 30 日まで申請を受け付ける。

6 その他

1 会 員

- ・ 2022 年度末の会員数は 2021 年度末の会員数 3,937 名から若干、減少する見込みである。

2 業務執行体制について

- ・ 代表理事、業務執行理事、年会長、事務局で定期的にミーティングを開催し、事業の円滑な運営、理事会の業務執行に協力する。

3 社会に向けて

- ・ 科学的で正確な薬理学的知識に基づいて、薬物に関する正しい知識を国民に対して広めることおよび薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうため、公開講座をとおして啓発活動を行う。
- ・ 倫理委員会規定を制定し、科学者の行動規範に反する不正行為の防止に取り組んでいる。

4 事務局体制について

- ・ 常勤 2 名による事務局体制が発足し、業務の引継ぎを進めている。
- ・ 職員の健康と生活を守るために「新型コロナウイルス対策に係る申合せ」を策定し、在宅勤務の環境を整備した。